

日にち 令和6年4月8日（月）

時間 15:00～

場所 庁議室

令和6年度

第1回 佐賀市DX推進本部会議

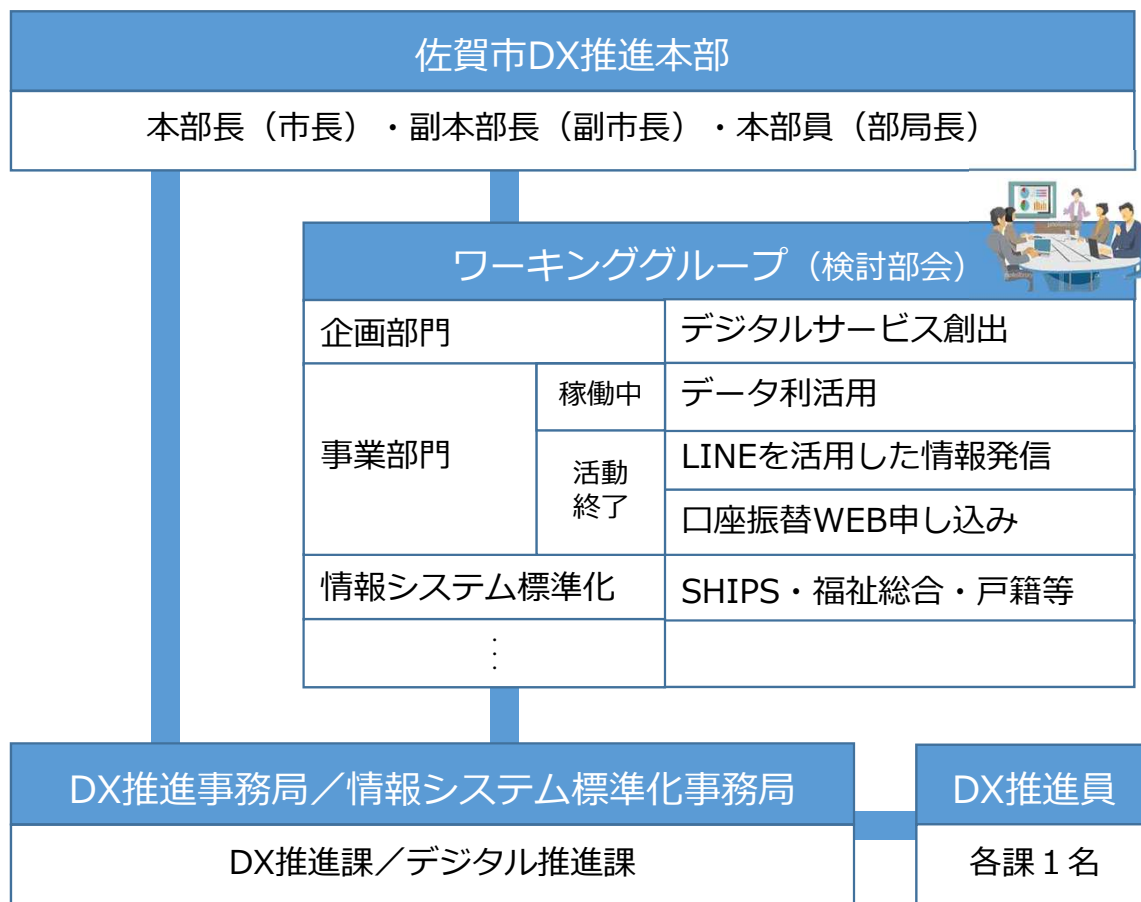
本日のアジェンダ

- (1) 令和5年度DX推進の取り組み
- (2) デジタル田園都市国家構想交付金 (R6年度実施)
- (3) 基幹系情報システムの標準化
- (4) 今後の予定

(1) 令和5年度DX推進の取り組み

佐賀市デジタル・トランスフォーメーション (DX) 推進本部

佐賀市のDX推進体制



所掌事務

- (1)DXの方針に関すること
- (2)DXの全庁的な推進及び総合調整に関すること。
- (3)このほか、DXを推進するために必要な事項に関すること。

過去の議題

- ・ DX推進方針の策定
- ・ DX推進員、デジタルサービス創出検討部会の設置
- ・ 各課のDX推進について (デジ田交付金関係等)
- ・ 佐賀市公式スーパーアプリの構築について
- ・ 基幹系情報システムの標準化 等

(1) 令和5年度DX推進の取り組み (DX人材育成・データの利活用)

「佐賀市DX推進実践研修：市民中心のDXを実現するポイント」

(一社)日本デジタルトランスフォーメーション推進協会

代表理事 森戸 裕一氏 (3/5-6開催 DX推進員対象)

《要旨》

- ・デジタル化時代において職員の考え方の変革と業務の改革を考える必要がある。
- ・佐賀市は少子高齢化などの課題に直面し、人口減少による財政状況の悪化や、地域課題解決のための新たな仕事の創出が求められている。
- ・DXの推進には、デジタルとアナログの使い分けや、職員の役割等の変革が必要。



EBPM※人材育成 ※エビデンス・ベスト・ポリシー・メイキング (証拠に基づく政策立案)

株式会社グルーヴノーツ

(1/31、2/13開催 デジタルサービス創出検討部会メンバー等)

- ・スマートシティ実現に向けた重点事業を中心とした課題を設定。
- ・2040年における理想的な状態を想像・設定した上で、
現在持ち得るデータを活用し、バックキャスト法を用いて
データに基づき政策を立案するワークショップを実施。



(1) 令和5年度DX推進の取り組み (DX人材育成・データの利活用)

データ連携基盤



(一社)コード・フォー・ジャパン酒井氏

(3/14開催 DX推進課職員対象)

- ・データ連携基盤について (概念等)
- ・ハンズオン研修
- ・R5年度に本市専用のデータ連携基盤構築完了

子育てナビ バージョンアップ



(一社)コード・フォー・ジャパン石塚氏

- ・UI/UXの向上
- ・保育施設入所状況の追加
- ・特産品ページ
WEBサイトの追加
- ・スポット情報の追加
施設等の概要説明
施設内サービス
利用可能日時
駐車場
AED
避難所指定情報等の表示
- ・オープンデータカタログサイトからデータを連携



(1) 令和5年度DX推進の取り組み

生成AI導入検討

《課題》

- ・情報の正確性や個人情報の漏洩へのリスク
- ・未熟な職員が利用することでリスクが高まる
- ・AIを使うことで個人の判断力や知識が低下する事への懸念

《トライアル利用における前提条件》

- ・セキュリティリスクを極力下げる。
(行政ネットワーク (LGWAN) 利用や
入力した情報を学習データとして利用しない 等)
- ・市業務に特化した環境を構築可能 (ChatGPT内の
データのみでなく、佐賀市独自の学習データ (議事録、
市報、マニュアルなど) を読み込ませて活用)

生成AIトライアル利用および検証



(1) トライアル利用対象のサービス

「自治体AI zevo ~Powered by ChatGPT for LGWAN~」(株)シフトプラス

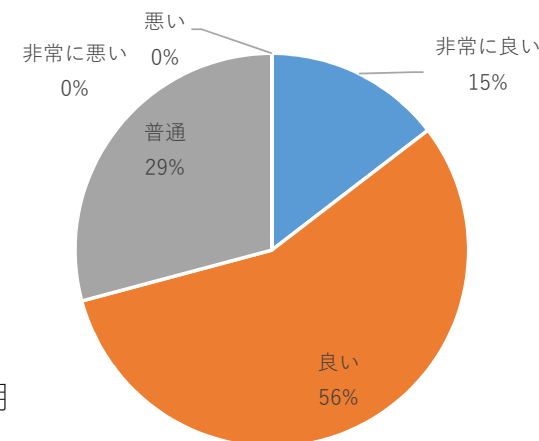
(2) 検証

検証期間：2月16日(金)～3月31日(日)

実施者：デジタルサービス創出検討部会など約150人

- 検証内容：
- ・挨拶文や市報記事、市議会での答弁原稿等の文章を生成
 - ・議事録の作成 (文章要約)
 - ・市民生活課窓口におけるマニュアルとして活用
 - ・「佐賀市生成AIの利用ガイドライン (案)」の内容検証

7割以上が
生成AIの有用
性を肯定



生成AI (「自治体AI zevo」に限らない) の
有用性・利便性について

今後の予定

ガイドライン成案の策定、調達仕様の策定

トライアル利用例 質問文（プロンプト）



組織管理者 [2024年03月27日 14:36]

① 作文する文章の作成主体及び概要を定義

令和6年度DX推進本部会議を4月に開催します。

市長として、DX推進本部会議のメンバーに対して話す初めの挨拶文を考えてください。

② 文章内容を覚知させる対象の定義

DX推進本部会議のメンバーは、市長、副市長、各部局長などで構成されています。

③ 文章で強調したい内容・文章の尺の定義

なぜ今、市役所のDX推進が必要とされているのか、DXを推進するために部局長として何をすればいいかを含めて500文字程度でお願いします。

④ 文章を説明する場の定義

なお、DX推進本部会議は、本市におけるデジタル・トランスフォーメーションを、全庁的な体制で推進し、デジタル技術の活用による市民等の利便性向上及び庁内の業務効率化を図ることを目的としています。

トライアル利用例 回答



① 皆様、令和6年度DX推進本部会議の始まりに立ち臨んで、私たちが追求すべき目的と方向性について語らせていただきます。

① 市長として、
会議の目的、方
向性を定義

この時代、デジタル技術の進歩は確実で、その影響は生活の全ての面に及んでいます。すなわち、我が市もこれからの時代に対応して改革を進めるその一環として、DX推進が重要とされています。④ 市民の利便性向上や業務効率化は、私たちに託された公務達成と市民への責任を実現するための重要なステップです。

② 対象として
各部局長を定義

② 各部局長の皆様には、③ それぞれが目の前にある業務改革のヒントを常に探し、新しい発見をデジタル技術へと結び付けて頂きます。更には、市民と市役所とのコミュニケーション方法をデジタル化することで、市民サービスの改善に一層努力しましょう。そして、我々は、市の成長と市民の幸せ追求のため、常に最新のテクノロジーを活用し、それを日々の業務に実際に取り入れる力を育てていく必要があります。

③ DX推進の必
要性・期待して
いることを定義

私たちは都市としての繁栄と市民の生活の向上を追求しています。その目標を達するためには、デジタル変革が不可欠であることを心から理解し、主導していく必要があります。 これからも一緒に力を合わせ、デジタル化の波を市全体で体現する道を切り開くことが、我々の重責となるでしょう。

④ 市民の利便
性向上・業務効
率化のためとし
て場を定義

ありがとうございます。

トライアル利用例 要約



組織管理者 [2024年03月27日 14:53]

先ほどの回答を箇条書きにして、100文字程度で要約してください。



1. デジタル技術の進化に対応し、市民の利便性と業務効率化を目指す。
2. 各部局長は、業務改革とデジタル技術の結びつけ、市民とのコミュニケーションのデジタル化を図る。
3. 最新技術の活用と取り入れを推進し、市の成長と市民の幸せ追求に貢献する。
4. DXは市の繁栄と市民の生活向上のため、必須であり、全体で取り組む必要がある。

(1) 令和5年度DX推進の取り組み (佐賀市公式スーパーアプリ)

R5年度 追加機能

R5.6月バージョンアップ

◎ 並び替え機能

- ▶ 自分のお好みのミニアプリを追加・並び替えが可能に。

◎ お知らせ通知

- ▶ 新着情報などをポップアップでお知らせ。

◎ 佐賀市プレミアム付地域振興券と連携



◎ ミニアプリ「イベントに参加しよう！」

- ▶ 佐賀市内のイベントを確認し申込みが可能に。



R5.9月バージョンアップ

◎ ミニアプリ「子育てナビ」

- ▶ 予防接種や子育て施設など、子どもの年齢にあった情報をお知らせ。



◎ ミニアプリ「とぴっくタウン」

- ▶ 自分が欲しい地域のお知らせやイベント情報をプッシュ通知でお届け。



R5.10月バージョンアップ

◎ 市民証

- ▶ マイナンバーカードを活用して本人確認ができた佐賀市民に発行。さらに、R6.1月からイベントや避難所で受付ができる「チェックイン機能」を実装。

R6.1・2月バージョンアップ



◎ Web口座振替受付システムと連携

- ▶ スーパーアプリから口座振替の申込が可能に。



◎ バルナーズ応援ミニアプリ

- ▶ Bリーグと連携し、佐賀バルナーズオリジナルチケット購入ページ

今年度も市民のみなさんの生活を便利で快適にする機能を追加していきます！

R6.3.31時点で

39,000ダウンロード突破！

SAGA CITY

佐賀市公式スーパーアプリが

デジタル・コンテンツ・オブ・ジ・イヤー'23

自治体アプリでは全国初!

「リージョナル賞」を受賞しました!

地域に根差したデジタルコンテンツやサービスの中で最も優れた功績を挙げた個人・団体に与えられる賞です。

評価されたポイント

市民、企業、地域、行政をつなぐ、みんなの「デジタルタッチポイント」。ごみの日の通知やマイナンバーカードを活用した本人確認ができるデジタル市民証を実装し、地域の掲示板を活用した双方向のコミュニケーションが行われている。住民生活を便利で快適にするために、みんなでアプリを育て、地域社会を豊かにするプラットフォームを目指している。

デジタル・コンテンツ・オブ・ジ・イヤーとは?

過去1年間に発売・発表されたデジタルコンテンツの中から優れた作品やサービスを選定し、功績を讃えるもの。

主催 一般社団法人デジタルメディア協会主催、後援は総務省。

後援 総務省

協賛 株式会社KADOKAWA、株式会社バンダイナムコホールディングス、ソニー・インタラクティブエンタテインメント、任天堂株式会社 など

他の受賞作品・受賞者

大賞/総務大臣賞
AMD理事長賞

日曜劇場「VIVANT」
THE FIRST SLAM DUNK

優秀賞

新しい学校のリーダーズ
アニメ【推しの子】
ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー
将棋チャンネル
STOP! 海賊版「ありがとう、君の漫画愛。」
ストリートファイター6
「PARCO HAPPY HOLIDAYS 2023」生成AI広告
Pokémon Sleep

功労賞
江並直美賞(新人賞)

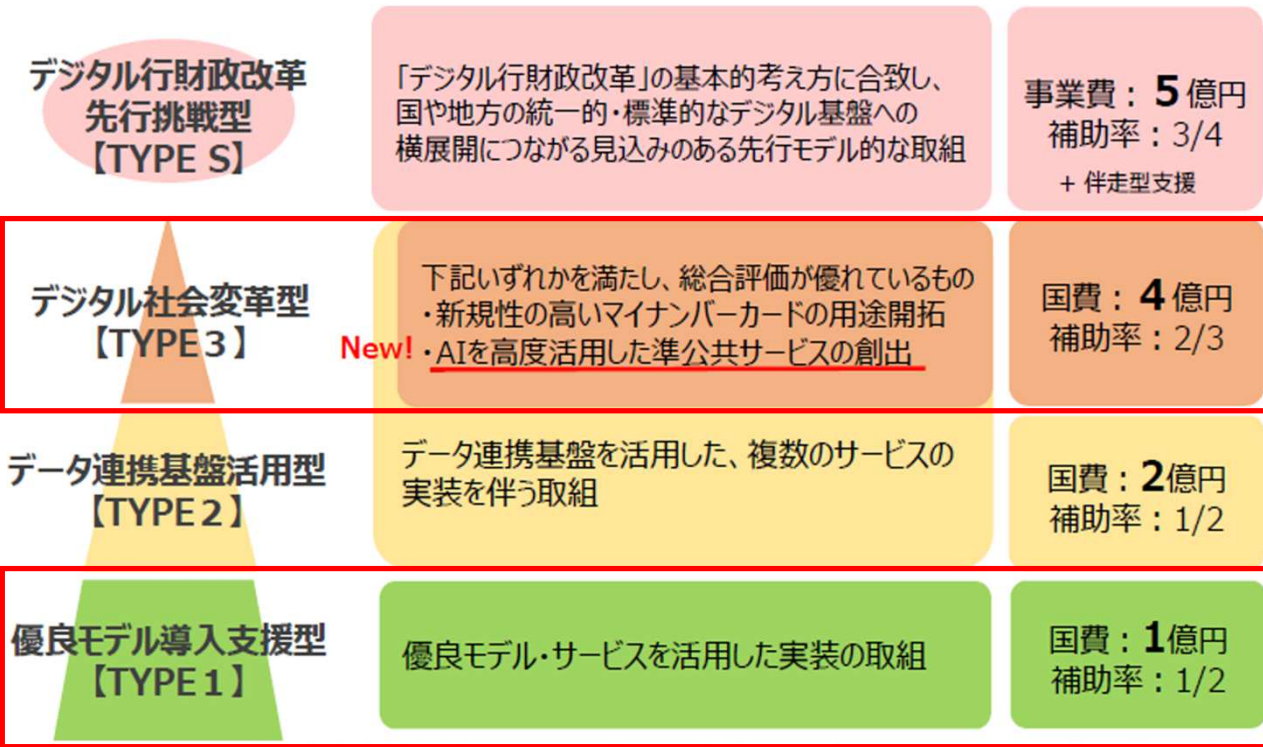
任天堂株式会社 代表取締役 フェロー みやもとしげる 宮本 茂
株式会社MIERUNE かとうしげ グラフィックデザイナー 加藤 創



授賞式の様子 大賞「VIVANT」の堺雅人さんたちも出席

(2) デジタル田園都市国家構想交付金 (R6年度実施)

目的	デジタルを活用した意欲ある地域による自主的な取組を応援し、「デジタル田園都市国家構想」を推進するため、 デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現 に向けた地方公共団体の取組を交付金により支援
概要	デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上に必要な経費を単年度に限り支援 【TYPE1】 他の地域等の優良なモデル・サービスを活用して迅速に横展開する取組 【TYPE2】 データ連携基盤の活用、複数のサービス実装、モデルケースとなり得る取組 【TYPE3】 TYPE2の要件を満たし、デジタル社会変革による地域の暮らしの維持につながり、かつ総合評価が優れている取組



佐賀市の採択事業

(単位：千円)

種別	総事業費	国庫補助額	補助率
TYPE3	236,199	157,466	2/3
TYPE1	68,044	34,022	1/2
合計	304,243	191,488	-

【TYPE 3】
みんなで創る・誰もが使える！
『スマート・ローカル！SAGACITY』

- ・スーパーアプリのバージョンアップ
- ・データ連携基盤、データマネジメントシステム
- ・地域コミュニティミニアプリ等の機能強化
- ・生成AIによる業務効率化及びサービス向上

【TYPE 1】

- ① 窓口改革の推進
- ② 包括支援プログラム導入
- ③ 学校生活に関する児童アンケート
- ④ スマート農業推進のための機器導入支援

デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ：TYPE 3の採択結果）

佐賀市

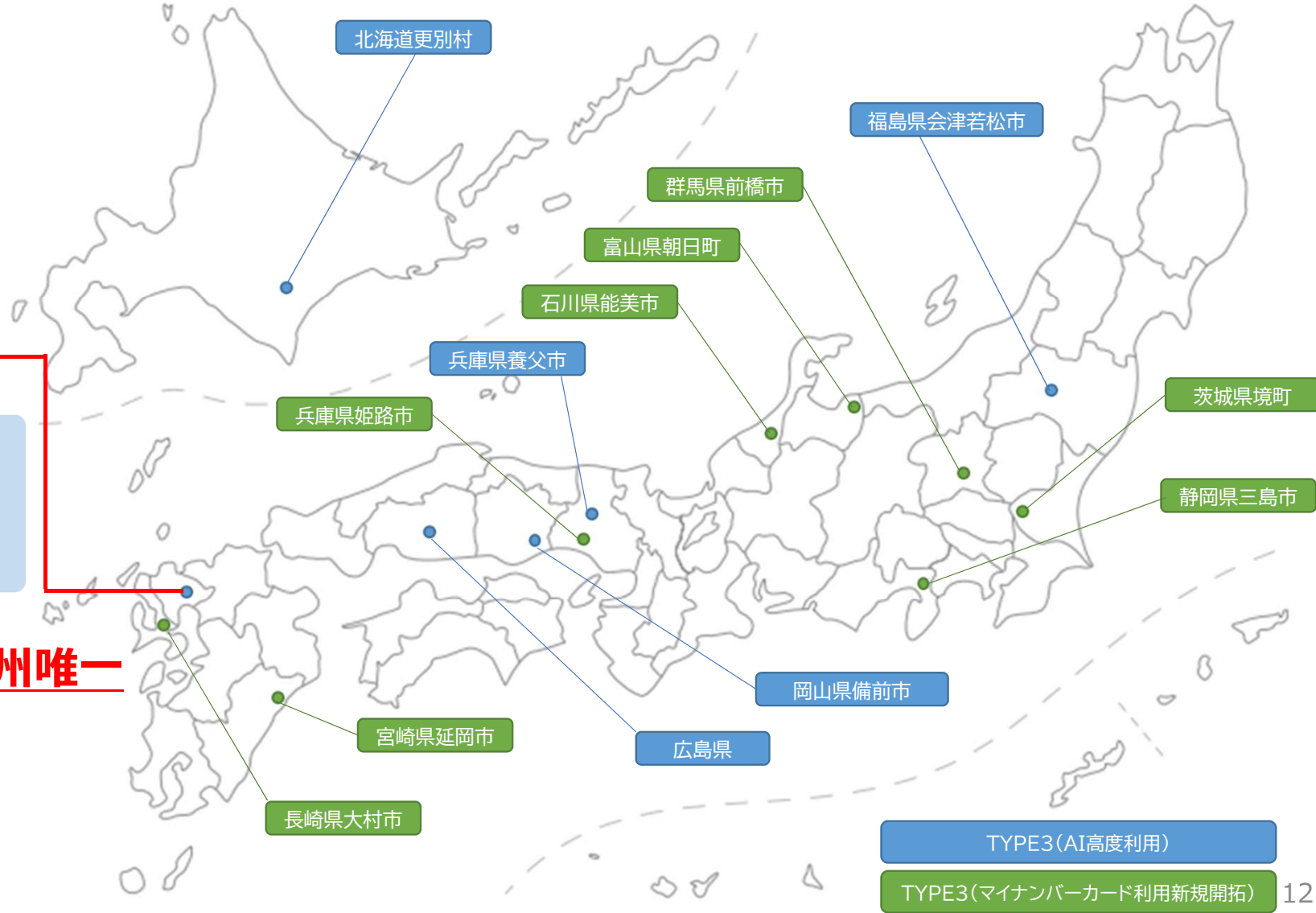
【TYPE3】

デジタル社会変革につながり、総合評価が優れているもの

✓ AI高度利用型は九州唯一

昨年度TYPE 2に引き続き

✓ 2年連続の採択



(2) デジタル田園都市国家構想交付金【佐賀市：全員が主役！みんなで創る『スマート・ローカル！SAGACITY』】

- R5年度までに、マイナンバーカードの公的個人認証機能を活用した「デジタル市民証」を、スマートフォンに搭載するアプリを開発
- R6年度は、行政イベントカレンダー及び申請・予約機能、住民コミュニティ・アンケート機能、モビリティシェアリングやヘルスケアのアプリ機能など、行政サービスにきめ細かく対応した機能を拡充。他自治体等との連携や協働も目指す



令和6年度当初予算（主なDX関連事業）

※朱書きは、デジタル交付金（TYPE1,3）対象事業

事業名	事業概要	R6年度予算	担当部署
スーパーアプリ関連	スーパーアプリの機能追加開発・改善や運用 （国スポミアアプリ、佐賀市イベントカレンダー、オンライン申請ほか）	140,153千円	DX推進課
データ利活用関連	データ連携基盤（センサーデータ等の活用）の運用、データマネジメントシステム（施設・イベント等の集約システム）の構築、データ分析ツール	70,770千円	DX推進課
DX推進支援・人材育成研修	生成AIの導入、デジタルデバインド対策、デジタルの専門家によるDX推進支援、人材育成研修等	24,974千円	DX推進課
窓口業務改革	窓口予約システム、リモート窓口（支所等外部拠点の活用）、市民ニーズの把握・業務の見直し（BPR）支援等	24,176千円	市民生活課（ほか）
スマート農業支援	ドローン等のスマート農業機器の導入補助	29,980千円	農業振興課
子育て・教育DX	放課後児童クラブ利用料キャッシュレス対応 プログラミングソフト導入、包括支援プログラム導入、学校生活満足度調査等	47,882千円	子育て総務課 学校教育課
観光DX	SNS活用による情報発信力強化、宿泊数・人流・観光消費額等の観光統計データを活用したEBPM等	5,120千円	観光振興課
介護予防DX	医療・介護・健診等レセプトデータを活用したハイリスク者へのアプローチ	19,630千円	高齢福祉課
スマート街なか	デジタルサイネージ活用、多機能型情報メディア設置、デジタルスタンプラリー等	31,600千円	中心市街地振興室
交通DX	電動キックボード実証実験、自動運転バス実証実験	21,460千円	企画政策課
防災DX（R5～7）	災害情報共有機能、避難所運営支援機能、災害情報投稿機能、避難判断支援機能などの導入のほか、佐賀県等外部システムとの連携	222,281千円	危機管理防災課

市役所に来て、窓口の順番を待ち、申請書を書く。
この“**当たり前**”を変えることに挑戦します。

窓口改革

手続きは、いつでもどこでも！
手間なくスムーズに！

- ◇ オンライン申請の拡充
- ◇ リモート窓口 (外部拠点の活用)
- ◇ 窓口予約 (手続き予約、相談予約)
- ◇ 書かないワンストップ
窓口申請システム (R7導入予定)



市民ニーズの把握、
動線・業務の見直しなど

バックヤード改革

データを活用して
業務を効率化！

ライフスタイルやニーズに合わせ、
「行かせない」「待たせない」
「書かせない・回らせない」窓口へ変革します！

『行かせない』

- ・ 証明書の電子申請 (手数料のキャッシュレス決済可能)
☞ キャッシュレス決済機能付電子申請システムの導入
- ・ 本庁と一部外部拠点とのリモート窓口の開設
☞ リモート窓口システムの導入



『待たせない』

- ・ 戸籍発行や相談窓口のオンライン予約
☞ 手続・相談予約システムの導入
- ・ 窓口での多言語翻訳・手話通訳
☞ 多言語翻訳・手話通訳ツールの導入



『書かせない・回らせない』

- ・ 申請手続における手書きの廃止と一部手続のワンストップ化
☞ 書かないワンストップ窓口申請システムの導入
(令和7年度導入予定)
- ☞ 窓口申請用タブレット型端末の導入



(関連部署：市民生活課、子育て総務課、DX推進課)

- ・ **令和6年度窓口業務改革推進室を新たに設置**
- ・ **デジタル庁窓口BPRアドバイザー派遣予定**

基幹系情報システムの標準化

1 これまでの進捗

現行業務と標準仕様書との差異分析（令和4年度～）

標準化対象システムごとに差異分析を実施中（標準準拠システムへの移行に伴い必要となる業務の変更内容を洗い出す）
令和6年3月末時点で20業務中1業務未完了

システム調達に向けた予算措置（令和5年9月～）

【令和5年度9月補正】基幹行政システム（SHIPS）・学齢簿システム

※対象業務：住民記録、印鑑登録、税務(滞納除く)、就学事務、国民健康保険(収納)、後期高齢支援、国民年金、児童手当、子ども・子育て支援

【令和6年度当初】戸籍システム（戸籍附票含む）・選挙人名簿管理システム

システム調達（令和5年12月～）

【SHIPS・学齢簿システム】

令和5年12月15日システム調達のため公募型プロポーザルを開始、3社から参加表明があったが最終的に3社とも辞退

【辞退の理由】

移行期限内（令和7年度末）での既存ユーザの標準化対応を迫られている中、新規ユーザ（佐賀市）へシステム提供するための人員確保が困難

基幹系情報システム標準化説明会（令和6年2月）

基幹系情報システム標準化ワーキンググループの各システム管理者及び担当者を対象に、現在の状況やスケジュール等について説明

2 今後の予定

SHIPS・学齢簿システム

①システムベンダーへの照会

履行期限やその他の条件をどのように変更すれば佐賀市に標準準拠システムを提供できるかをシステムベンダーへ照会
⇒2年間の履行期限延長が必要と回答

②移行困難システムの承認

独自開発や現行ベンダー撤退等により、移行の難易度が極めて高い『移行困難システム』としてデジタル庁及び総務省の承認を受ける
⇒令和6年3月5日該当見込みとの通知、後日承認予定

③プロポーザル（2回目）の実施

システムベンダーへの照会結果を元に、履行期限やその他の条件を変更して再度プロポーザルを実施
⇒令和6年8月までに標準準拠システムを選定予定

④経過措置への対応

標準化対応が完了するまでの間、以下の経過措置のための機能を実装

- ・国が定める規格に合わせたデータの出力
- ・標準化対応済システムとのデータの連携

基幹系情報システムの標準化

生活保護システム

現行業務と標準仕様書との差異分析

制度改正や標準仕様書の改版等への対応のためシステムベンダーのSEリソースが逼迫し、作業が令和6年度へ順延

戸籍システム（戸籍附票含む）・選挙人名簿管理システム

現行システムベンダーと契約締結後、データクレンジング、環境構築等の作業に着手

その他の標準化対象システム

システム調達費用の予算措置準備中

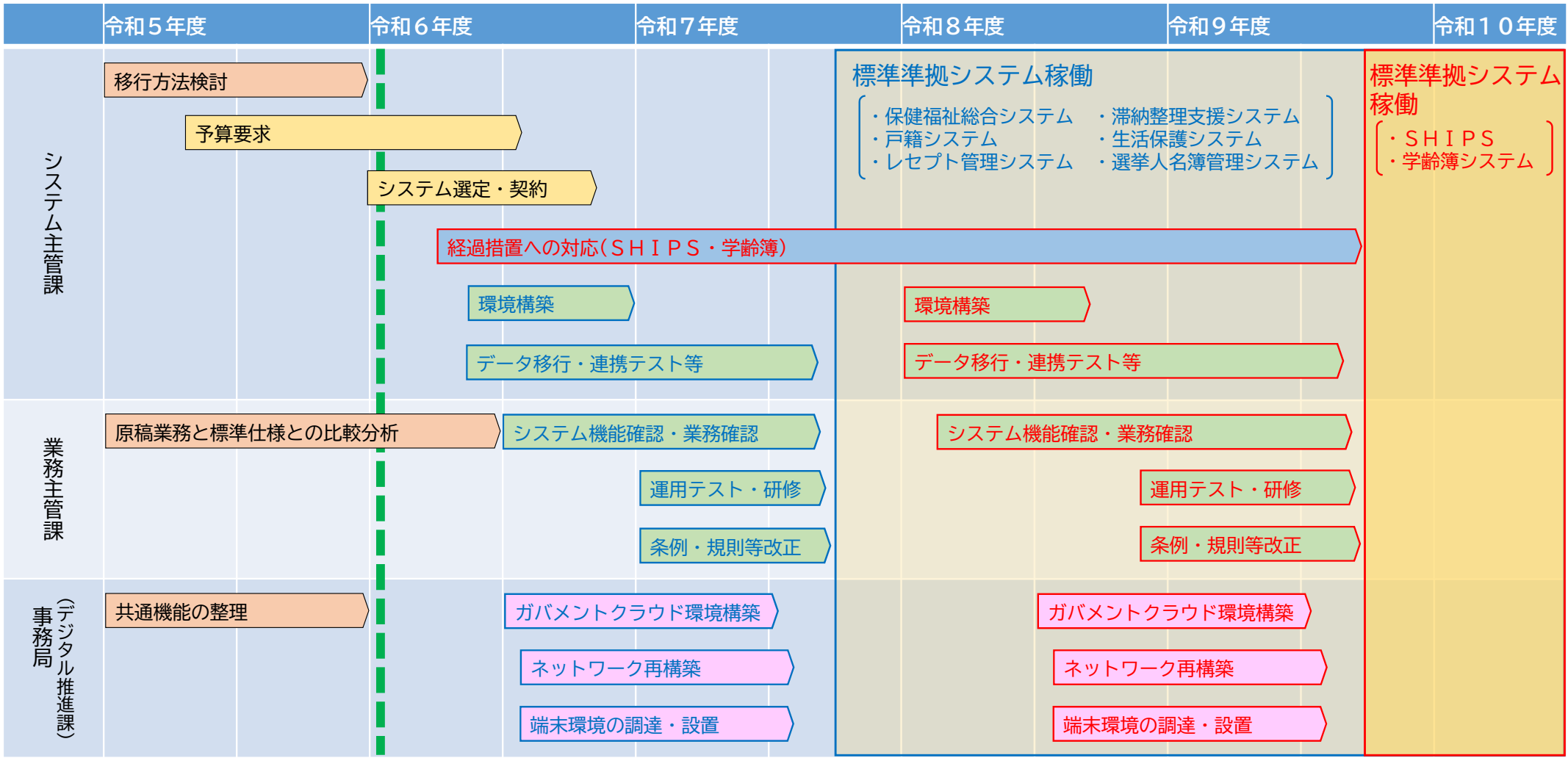
⇒現行システムベンダーとの調整が整い次第、システムごとに予算要求



各システム主管課と密に連携を取りながら、引き続き、ベンダーに対し計画的な標準化実施を働きかける

基幹系情報システムの標準化

3 標準化の全体スケジュール



(4) 今後の予定

年度	令和4、5年度	令和6年度
1	<p>『スタートアップ期』</p> <p>★ R4.7.26「佐賀市スマートシティ」宣言 ★ R4.11スマートシティ推進協議会設置</p>	<p>スマートシティ推進の『本格実施』</p> <p>デジタル田園都市国家構想交付金デジタル実装タイプ TYPE 1、TYPE3の活用</p> <p>佐賀市DX推進方針の改定</p> <p>各分野の「OODX」の推進：アクションプラン</p>
2	<p>①デジタルサービス創出</p> <p>各種ワーキンググループ (デジタルサービスの検討)</p> <p>デジタルサービス実装・創出 ・各部横断的な取組</p> <p>②データ連携基盤構築</p> <p>データ連携基盤実装準備</p> <p>データ整理・活用、データ連携基盤等の活用 ・データ連携基盤実装 ・データ利活用・EBPM・オープンデータ化 ・データマネジメントシステム構築</p> <p>③DX人材育成</p> <p>DX推進員へのDX研修</p> <p>DX人材育成の強化 ・地域情報化アドバイザー等による研修会の実施</p>	<p>5月 5月 8月 10月</p> <p>← →</p> <p>DX関連事業に関する調査 政策調整監会議 各分野OODX事業の提案 予算化に向けた協議</p> <p>サマリーレビュー 予算要求</p>
3	<p>佐賀市DX推進本部会議</p> <p>・重点取り組み等まとめ ・DX推進進捗報告 ・次年度の取り組み（案）</p>	<p>★ 第1回 4月</p> <p>DX推進の取り組み</p> <p>★ 第2回 7月</p> <p>DX推進の取り組み (進捗報告・次年度予算検討)</p> <p>★ 第3回 1月</p> <p>R7年度の取り組み方針（案）、DX推進方針改定</p>

- ◆ デジタル田園都市国家構想交付金への対応
 - ・ サマーレビューまでに次年度計画
- ◆ 窓口業務改革推進室を中心とした業務改革の推進
 - ・ 市民生活部、保健福祉部、子育て支援部、各支所の協力体制
- ◆ 佐賀市公式スーパーアプリの各分野での活用
 - ・ ダウンロード数の増加 ・ デジタル市民証登録数の増加
 - ・ データマネジメントシステム（DMS）等を活用したデータ利活用及び連携
- ◆ DX推進方針の改定
 - ・ 各分野の「〇〇DX」の推進については、各部局・各課にて主体的に推進
 - ・ DXを課題解決のための一つのツールとしてフル活用（DXそのものが目的ではない）
- ◆ 基幹系情報システムの標準化
 - ・ 国やベンダーの動向を踏まえた計画的な対応